

令和4年度 自己評価書

学校名

北海道苫小牧総合経済高等学校

1 本年度の重点目標

- 1 心身の健康増進と安全に行動する態度の育成を図る
- 2 学習意欲の育成と学習習慣の定着を図る
- 3 豊かな人間性と社会性の育成を図る
- 4 望ましい勤労観・職業観の育成と進路実現を図る

2 自己評価結果

評価項目・指標等			達成状況	取組の適切さ	今後の改善の方策
大項目	中項目	小項目			
教育課程・学習指導	教育課程の状況	BYODへの取組から、新1学年に限らず2・3学年においても、教科の特性を活かしたICTの活用を推進した。また、新型コロナウイルス感染症により、欠席している生徒への対応について、学びの保障の観点からICTの有効活用した学習方法について研鑽に努めた。学校評価アンケートでは生徒及び保護者が「概ねできている」と回答。	B	B	・家庭学習間の定着に向けて、各教科間が連携を図り、実践する。 ・学習に対する達成感や成就感を高める指導、及び進路指導と連携した学習活動の充実や学科の特色を活かした体験的学習の充実を図る。 ・教科横断的授業についての研究授業、教科研修、実践の機会を増やす。
	各教科の状況	教科横断的な授業展開の進展を図るため、教育課程委員会が中心となり、単元配列表をもとに各教科からの意見集約及び実践に取り組んだ。また、検定試験に対する教育活動においても推奨しており、生徒自身が受験機会を活かしながら積極的に取り組んでおり、学校評価アンケートでは「概ねあてはまる」と回答している	B	B	
生徒指導	生徒指導の状況	玄関指導を継続して取り組むことから、遅刻や身だしなみ等に関する指導のみならず、生徒への声かけ等により状況把握に努めることができた。学校評価アンケートでは「概ねできている」と回答している	B	B	・基本的生活習慣の確立と安全教育の充実を図る。 ・教職員の共通理解、共通実践による生徒指導の充実を図る。 ・日常の取組の中で生徒、保護者との信頼関係が構築できるよう、定期的な面談を実施する。 ・より組織的な教育相談の充実を図る。
	人格的発達のための指導状況	人権や生命を尊重する態度の育成や、いじめ問題について組織的な対応に努めた。学校評価アンケートでは生徒及び保護者からは概ねできていると回答している。 担任及び学年団が連携を深め、教育相談への対応がなされている。学校評価アンケートでは、概ねできていると回答している。	B	B	
進路指導	就職・進学指導の状況	3年間を見通した進路シラバスに基づき指導の改善を行った。個別に応じた情報提供は概ねできているが、連携による、組織的な進路指導の改善を進める必要がある。(学校評価アンケートでは3年間を見通した進路指導計画に60%の教職員ができていますと回答している。)	B	B	・企業開拓(事務職・販売職)を積極的に実施し、生徒の進路先確保に努める。 ・進路指導部と3学年の連携を密にし、3年間を見据えたキャリア教育を推進する。
	地域・企業との連携状況	市内企業を中心に企業開拓(訪問)を実施した。進路希望の早期確定と適切な指導により、希望する進路決定に結びついている。学校評価アンケートでは良好と回答している	B	B	

その他

健康・安全指導	健康指導	コロナウイルス感染症対策を中心に対策を実施した。予防と対策について資質が育成できている。学校評価アンケートでは、教職員が概ねできていると回答している	A	A	・「保健だより」による啓蒙活動の継続と外部講師等の招聘による生徒への働きかけを充実させる。 ・心の相談委員会の充実 ・教育相談体制の確立を図る。更なる生徒理解のため、日常的な相談体制の充実。
	心の病気への対応	心の病を抱える生徒に対し、組織的な対応や学校カウンセラー等の外部機関との連携を行い対応を行った。また、健康な生活を実践する習慣を身につけさせる指導は概ね良好である。学校評価アンケートでは概ねできていると回答している	B	B	
国際理解	国際理解	国際経済科が中心となり、異文化交流プログラム等を活用しながら、異国文化に触れる機会を設定し取り組んだ。	B	B	・引き続き、国際理解教育のための新たな取り組みの検討を図る。

次年度以降の目標設定等に反映させる自己評価結果及びその改善方策事項

- ・新教育課程の具体的指導内容の実施に伴うPDCAサイクルの確立を図る。
- ・3年間を見据えた進路指導及びキャリア教育の確立を図る。
- ・校内研修の活発化を図り、観点別評価や教科横断的な取組、教育相談の体制などについて理解を深める。
- ・教育相談体制の充実と心因性疾患に対する対応の検討。
- ・地域連携の充実。